英文學評論

第 XXXII 集

恣意の空間と摂理の空間（その一）……松　下　千　吉
——『リア王』の浜セリ採り・覚え書き——

エマスンの詩について——序説——……尾　形　敏　彦

固き世に投入れられた優しさ……三　宅　卓　雄
——ホーソーン短篇論(1)「優しき少年」——

Marvell の '*Ros*' と 'On a Drop of Dew'……蜂　谷　昭　雄

京都大学教養部英語教室

目　次

恣意の空間と摂理の空間（その一）……松下千吉……（一）
――『リア王』の浜セリ採り・覚え書き――

エスマンの詩について――序説――……尾形敏彦……（二五）

固き世に投入られた優しさ……三宅卓雄……（五九）
――ホーソーン短篇論(1)「優しき少年」――

Marvell の *'Ros'* と 'On a Drop of Dew'……蜂谷昭雄……（1）

編集後記

※『英文学評論』第三十二集をお届けする。寄稿者の寛大と協力とによって辛うじて体裁を保ち得た。記して謝意を表す。本誌は昭和二十九年三月に創刊。爾来二十年、人去り人来り、執筆者、延一七七名、総計四、三三三頁。時に編集難をかこちつつともかく積み重ねて今日に及ぶ。

※昨夏のJACETセミナーにおいて十回にわたる講義を終えたO・トマス博士にたいし聴講者一同は思わず起立して大きな拍手を送ったと、教室の豊田昌倫氏が報じている（『英語青年』一一九巻七号）。「教育者としての信念にあふれた真剣な眼差し」と「常に全力を注いでの用意周到な講義」にうたれたのだ。博士の著書の一つに、「私は教育者であって、学者ではない」という意味の一節があると聞く。頂門の一針として受け取りたい。

※数年前、専門課程に進んできた学生の原書を読む力の不足を歎き、教養課程では一体何を教えているのかと難じる生物学者の一文を新聞紙上で読んだ記憶がある。最近も、同じような趣旨のことがある座談会で英文学者の口から出ていた。こういう発言に接すると、これはいかん、これはいかんと思いながら教養課程で英語を教えている筆者などは恐縮するよりほかにしかたがない。

※教室談話会が一月に開かれ、山本利治氏が小説とリアリズムの問題について話をした。二月一日付で安藤昭一氏は教授に昇任。

英文学評論　第三十二集

非売品

昭和四十九年三月二十五日　印刷
昭和四十九年三月三十日　発行

編集者　京都大学教養部英語教室
代表者　増山　学

印刷所　明文舎印刷株式会社
京都市南区吉祥院池ノ内町一〇

発行所　京都大学教養部英語教室
京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

Volume XXXII, March 1974

CONTENTS

Space of Will and Space of Providence (1)
—Notes on the Samphire-Gatherer in *King Lear*.....*Senkichi Matsushita*

On Emerson's Poetry .....*Toshihiko Ogata*

Studies on Hawthorne's Major Tales (1): "The Gentle Boy".....*Takuo Miyake*

Marvells' '*Ros*' and 'A Drop of Dew': A Commentary.....*Akio Hachiya*

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY